

第2回 阪急長岡天神駅周辺整備基本計画策定委員会 議事概要

■日時：平成29年5月29日（月）14:15～16:00

■場所：長岡京市役所 南棟3階 第一委員会室

■議題：1) 第1回委員会議事内容の確認
2) まちづくり基本構想 中間とりまとめについて（報告）
3) 道路と鉄道の立体交差方策について
4) 今後のスケジュール(案)

■内容

- ・長岡天神駅周辺まちづくり基本構想の策定に向けた中間とりまとめ について報告
- ・長岡天神駅周辺の踏切における交通状況について確認
- ・道路と鉄道の立体交差方法について確認
- ・今後のスケジュール（委員会日程毎の検討内容）について確認

■主な意見

【 まちづくり基本構想 中間とりまとめについて 】

- ・一旦、南側に駅前広場を整備すると、人の流れが変わり、アゼリア通りが衰退しかねない。
- ・南側の駅前広場が出来たとしても、天神通りの4車線道路に停車できるため、利用されるか疑問がある。
- ・暫定的な駅前広場の整備は、段階的な整備効果を上げるために必要ではあるが、暫定期間が10年を超えると、それを前提とした土地利用や人の流れが固定化されるため、最終ゴールを見据えて検討する必要がある。
- ・「暫定形」という言い方ではなく、「第1段階」「第2段階」という言い方にして、「完成形」は「最終形」という表現とする。
- ・駅前広場に関しては、次回の委員会にて議論を行う。

【 道路と鉄道の立体交差方法について 】

- ・市街地の一体化など、まちの賑わいを向上させるためには、道路を高架化にするのではなく、鉄道を立体化していくという方向で、今後検討を進めていく。

【 鉄道の高架化と地下化について 】

- ・地下化について、景観面などから検討してほしい。

- ・ 地下工事の技術も進歩しており、工事費用も以前よりは下がっているのではないか。
- ・ 高架化にするか、地下化にするかについては、予算の制約もついてくる中で、費用対効果の面を考慮する必要がある。
- ・ 連続立体交差事業は、東京都以外ではほとんどが高架化で行っており、その理由は工事費用の面から決まっている。
- ・ 現状の地形を見ると、長岡天神駅周辺は周辺よりも低いため、技術的に効率的な施工を選択すると、高架化とする事が一般的ではないか。
- ・ 鉄道の高架化に関して、長岡天満宮の鳥居が高架構造物で隠れるのかどうかなど、景観がどうなるのか立体的に検討する必要がある。
- ・ 鉄道の地下化に関して、地下インフラの移設面を含めて費用を確認し、検討を進めていく必要がある。
- ・ 鉄道の立体化について、費用面や施工面といった問題点を整理し、提案すること。
- ・ 鉄道高架下空間の有効活用事例を提示する。
- ・ 連続立体交差事業の実施効果として、市街地分断の解消事例を提示する。